

非核の政府を求める石川の会 会報

非核・いしかわ

二〇一三年日本平和大会 in 岩国へ

池田治夫氏を代表派遣します

シリアの事態が示すように、アメリカ単独主義は通用せず、紛争の平和的解決が世界の流れとして強くなっています。

軍事一辺倒の安倍政権は、憲法解釈で「集团的自衛権」行使を可能にし、世界規模でアメリカと戦争できる国にしようとしています。

集团的自衛権と一体で成立させようとしている

憲法いかし 平和なアジアを!!

2013年 日本平和大会in岩国 学習パンフレット

米軍基地も軍事同盟もない 憲法の輝く日本めざして



安倍政権の改憲路線は何かねらい? 沖縄・オスプレイ・低空飛行・岩国をワウツテ! アジアの平和 どうすればつくれるの?

(日本平和大会 in 岩国・学習パンフレット)

事務局

〒920-0848

金沢市京町 28-8

石川民医連労働組合気付

Tel 076-251-0014

郵便振替口座

00760-0-15689

非核 5 項目

- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める。
- ② 国是とされる非核三原則を厳守する。
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する。
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。

「国家安全保障会議(日本版NSC)設置法案」(注)は「戦争をする国づくり」の司令塔となるものです。

その守秘義務を徹底するためにNSCと一体の「特定秘密保護法」があります。政府の憲法解釈を實行できるように法律整備をする「国家安全保障基本法」等の制定を許してはなりません。

加えて、オスプレイ撤去、新基地建設反対、核廃絶の市民運動を發展させる立場からも、日本平和大会は大変重要な役割を担うことになるでしょう。

◆ 派遣費用の募金のご協力をお願いします。

非核石川の会から被爆二世であり、平和運動にも関わってこられた池田治夫氏を代表派遣します。費用は約五万円が必要です。重ね重ねのお願いで誠に恐縮ですが、同封した郵便払込票にて代表派遣費用の募金へのご協力をお願い申し上げます。

◎ 開催日: 十一月五日〜一七日

◎ 開催地: 山口県岩国市民会館ホール・外

次頁の池田治夫氏の手記も併せてお読み下さい。

(注) 日本版NSCはアメリカ国家安全保障

障会議=National Security Council

外交・安全保障政策の意思決定の中核となる首相、

核廃絶費用

八月、ある会員から今年度の会費の入金振込があった。開けてみると全国ニュースの金額欄に斜線が引かれ、その横に「面白くないのでやめます」とメモ書きされていた。会員と読者を増やすことが今年の総会方針の一つであるだけに残念に思った▼米国の信用情報調査会社ギャロップ社が二十年間、十億人から情報、信頼を調査分析した「リピーターの心理条件」を思い出した▼購買心理は変化していない▼リピーターの購買動機には四つの共通点がある▼レベル一・正確である。約束を守る。注文通りに納品する▼レベル二・直ぐに役立つ。欲しい物がある▼レベル三・親身になる。言い訳をしない。話を遮らない▼レベル四・有益なアドバイスがある。付き合っって何がお得か▼レベル一と二は当然なこと誰にでも出来るし、真似が出来る。一と二をクリアしないと三・四に行けない▼レベル一と二だけでは差別化出来ない。レベル一〜四が出来る差別化出来る。一つ欠けても差別化できない▼評判とは一〜四が完全に満たされ、評判になると紹介者が生まれる。とあった▼「反核平和運動」と「私たちの政府」をつくるという「国民主権の運動」をすすめるための、謙虚に反省をする機会をいただいた。(平)

官房長官、外相、防衛相の四大臣会合は機動的、定期的に開催。四大臣に財務相、総務相、国防に關係する大臣を加えた九大臣会議も開催する。

内閣官房に設置する国家安全保障局は六部門で構成、最終的には一〇〇人規模になる。

NSC関連法案は一〇月一五日開会の臨時国会で審議し一月中旬に成立をもくろみ、成立後政府はNSCを設置する予定でいる。

自民党の「インテリジェンス・秘密保全等検討プロジェクトチーム」の座長は町村信孝元外相。町村信孝元外相の父は町村金五元参院議員で、一九八〇年に一度葬られた国家秘密法案の促進議員懇談会の顧問を務めた。同会の会長は安倍首相の祖父である岸信介元首相、情報統制を受け継ぐ二、三世が復活に執念を燃やしている。

日本平和大会 in 岩国の参加にあたって

池田治夫

初めて「日本平和大会」に参加させていただきます、石川民医連の池田といいます。民医連は医療・介護などの社会保障分野の取り組みに熱心なだけでなく、命と健康をめぐる共通の土台である「平和問題」にも取り組んできました。とは言え、熱の入れように微妙な違いがあつて、外部から見れば批判を受けることもあります。私個人の思いですが、それは組織の中の「個」の確立において必ずしも成熟した段階に至っていないことが原因かと思ひます。提起があれば取り組む、言われれば参加するといった類の行動パターンがまだまだ色濃く残っている

からでしょう。私は、定年を少しあとに控えて、少しずつ自分の足で歩き始めようかと思ひました。

◇ ◇

私は被爆二世です。五五年前に他界した父親が広島近郊大竹の海軍潜水艦学校にいて、被爆直後の市内に救援に入ったと聞きました。やがて平均年齢八〇歳になるうとする被爆者の声がこの地上から消えてしまうのではないかとこの強迫観念があります。そこで今年の夏、石川県原爆被災者友の会の総会で数名の仲間といっしょに被爆二世の声をおげることになりました。

三・一一福島原発事故を経て、核被害Ⅱ被ばく問題は人類共通の関心事になりました。電力会社は大企業利益の総代と言えますが、被爆者に対する仕打ちと原発事故被害者に対するそれは、全く同じです。このまま見過ごすことができない事態がどんどん進んでいます。原発再稼働、オスプレイ配備、TPP交渉参加、消費税増税と社会保障切り捨て、どの切り口から切っても私たち国民の血が流れて悲鳴が聞こえるようです。「自分には関係ない」と他人事で済ませられない事態に、「個」の確立が求められていると感じます。

以上が私の日本平和大会に参加しようと思つた動機です。基地を、武器を、兵隊を自分の目で見て、感じる。実際に運動に参加している方々の体験を聞いて、その想いを深める。日本のマスコミの操作された情報だけでなく、世界の動きを外国の方々から聞いて、広い世間を知る。それらを通じて自分のものの見方が少しは変われることを期待しています。

非核石川の会・学習講演会（講演要旨）

福島原発事故と放射線の健康被害をどう考える

講師：児玉一八（本会世話人）

福島とチェルノブイリの比較

福島第一原発事故は、東北地方太平洋沖地震の地震動と津波が引き金となつて全電源喪失にいたり、原子炉の冷却ができなくなった「空焚き事故（冷却材喪失事故）」です。冷却機能を失つたことにより、核燃料や被覆管などが溶融して格納容器に漏れ出し、ベント（弁開放）による排気と水素爆発によつて放射性物質の大量放出が起りました。

チェルノブイリ原発事故は「暴走事故（反応度事故）」で、出力が約四秒間で定格の百倍に急上昇し、水素爆発と水蒸気爆発は数秒の間隔でおこり、原子炉と原子炉建屋が破壊されました。爆発で压力容器のフタは二百メートルも吹き飛んで完全に青天井になり、減速材の黒鉛が火災を起こして、約一〇日間にわたつて大量の放射性物質が環境に放出されました。

チェルノブイリ原発事故では、放射性希ガスは原子炉内の全量、揮発性の放射性ヨウ素は約五〇%、放射性セシウムと放射性テルルは約三〇%が大気放出されました。揮発性と不揮発性の中間に相当する放射性ストロンチウムと放射性バリウムも、それぞれ約四・五%と約四・〇%が放出されました。さらに、不揮発性の放射性ジルコニウムとプルトニウムもそれぞれ約三・四%と約二・〇%が放出されるなど、本来ならば大気放出されにくい多数の放射性



福島県伊達市の除染廃棄物保管場所（仮置き場）

核種が放出されてしまいました。

一方、福島第一原発事故では水素爆発があったものの、大気放出されたのは放射性希ガス、揮発性の放射性のヨウ素、セシウム、テルルが主でした。揮発性と不揮発性の中間に相当する核種（ストロンチウム90、バリウム140など）、不揮発性の核種（ジルコニウム95、プルトニウムなど）はいずれも、放射性セシウムと比較すると大気放出量も線量寄与もともに非常に小さいのが特徴です。

福島第一原発事故とチェルノブイリ原発事故の、この違いをしっかりと見ておく必要があります。

福島の状況はどうなっているか

―三回目の調査に行って

今年八月下旬、日本科学者会議「第三四回原子力発電問題全国シンポジウム」（原発シンポ）の巡検

で福島市と伊達市に行きました。福島の現地調査は三回目です。

J A新ふくしまの矢野目モニタリングセンターでは、食品の放射性物質検査体制を見せてもらいました。ゲルマニウム半導体検出器一台、NaI(Tl)シンチレーション検出器四五台などがあって、総検査数は四万三四三九検体だとうかがいました。ほとんどの検体が検出限界以下となっており、放射性物質が検出された場合も、国が定めた一般食品中の基準値（二〇一二年四月以降は 100Bq/kg （ 1kg あたり）の放射能（ベクレル）をはるかに下回っているとのことでした。

福島県労働保健センターでは、ホールボディカウンター（WBC）による内部被曝検査を視察しました。本年八月までに三万四千人が測定し、巡回測定の一万人とあわせて八万五千人が測定して、現在はほとんどの人が $20\mu\text{Sv/y}$ （一年で 20mSv ）以下になっていると説明を聞きました。

南相馬市立総合病院のWBCによる、子どもの体内放射性セシウム量の測定結果も聞きました。二〇一一年九月～一二月には 20Bq/kg 以上の子どもは、検出限界以下の子どもは六四％だったのが、一二年四～九月には検出限界以下の子どもが九九・八％になり、今年五～八月には南相馬市小中学生三二五五人が測定し、全員が検出限界以下でした。南相馬市は、旧警戒区域や旧計画的避難区域という避難指示区域を含む相対的に汚染の程度の高い自治体ですが、子どもの体内の放射性セシウム濃度は、事故後の時間経過に伴ってめざましく低減しつつあります。

原発シンポで、陰膳方式（調査対象者の何日分の食事を収集して食事量の放射能を求め、一日当たり摂取する平均放射能を推定）による内部被曝線量の評価結果も報告されました。朝日新聞・京大、日本生協連、福島県、国立保健医療科学院がそれぞれ行った結果は、多くの福島県民の内部被曝線量が、二〇一一年秋から一二年春までの時期に最大で $100\mu\text{Sv/y}$ 、一二年夏以降は最大で $10\sim 100\mu\text{Sv/y}$ ほどであり、自然放射線による日本人の内部被曝線量 $990\mu\text{Sv/y}$ や食品の現行基準値の前提である $1000\mu\text{Sv/y}$ よりはるかに低いことを示しました。

福島県では、福島原発事故時に $10\sim 18$ 歳だった県民を対象に、甲状腺の超音波検査が実施され、二〇一三年七月末、細胞診で四四例が悪性ないし悪性疑いであったと発表されています。チェルノブイリ原発事故では、周辺地域の住民で甲状腺がんを手術した症例が約六千例、このうち甲状腺がんが原因で死亡した症例が一五例あったとされ、福島原発周辺地域でも小児甲状腺がんが多発するのではないかと危惧されています。しかし、放射線感受性が高く、甲状腺重量が相対的に小さい 10 歳以下の子どもが二例しかいないこと、事故から二年しか経過していないことから、被曝との関連性は非常に低いと考えられています。

さらに、①福島事故による放射性ヨウ素の放出量は、チェルノブイリ事故の一〇分の一以下、②福島事故で放出された放射性ヨウ素の $70\sim 80\%$ は海洋に降下したと評価される、③いくつかの調査による甲状腺線量の評価値はよく一致しており、チェ

ルノブイリ周辺地域と比較して、福島の子どもたちの甲状腺線量は中央値で一〇分の一以下、最大値で三〇〇分の一以下、④政府の対応には様々な問題があったが、牛乳・乳製品の放射性ヨウ素の規制などで、旧ソ連政府の対応よりはるかに速い対応であった。などの理由で、多くの研究者は将来にわたって小児甲状腺がんが多発する可能性は非常に低いと考えています。

居住地域における線量低減対策は、住民にとって依然として最重要課題で、内部被曝線量の低減対策を継続しながら、除染など外部被曝線量の低減対策に重点を置いた施策が求められます。外部被曝線量の低減のためには、除染をできるだけ早く行うことが重要です。本宮市でのガラスバツジによる積算線量の測定結果を見せてもらいましたが、除染によって外部線量が大きく下がっていることが、明確に示されています。

伊達市の除染廃棄物保管場所（仮置き場）の現地視察にも行ってきました。仮置き場は、除染作業で発生した除去物を一括で保管するための施設で、土砂などの不燃物と落葉・雑草などの可燃物に分別し、フレキシブルコンテナに入れて、仮置き場に搬入されてきます。視察した仮置き場は、福島特産の桃の畑のすぐ横にありました。仮置き場の中と外で、シンチレーションサーベイメータで空間線量率を測定しました。野口邦和さん（日本大学准教授）から「仮置き場の安全性の確保はそれほど大きな問題ではないと思う」と聞いていましたが、視察によってその通りだと実感できました。

※より詳しく知りたい方には、非核の政府を求める会

『新「原発安全神話」と国民の安全』池田香代子・齋藤紀・清水修二『福島再生—その希望と可能性—』かもがわ出版、宇野賀津子『低線量放射線を超えて—福島・日本再生への提案—』小学館新書をお勧めします。

原発事故と放射線障害の問題に

どう向き合ったらいいの

「原発シンポ」を準備するにあたって、清水修二さん（福島大学教授、前副学長）から何度かお話をうかがう機会がありました。その中で最も衝撃を受けたのが、次のことでした。

—昨年、避難区域等の約十八万人を対象に行われた『心の健康度』調査で、六割の人が遺伝的影響を恐れているという結果が出た。この数字の重さは計り知れない。広島・長崎の被爆者データからは、放射線被曝による遺伝的影響は認められないとの評価が定説で、事故後二度訪れたベラルーシの小児がんセンターでも、汚染地域と非汚染地域とで先天異常の発生率に差はないと説明があった。チェルノブイリ事故と比べて被曝線量の圧倒的に小さい福島事故で、遺伝的な疾患が生じる可能性はまずないと行って間違いはない。にもかかわらず、福島の被災者の半数以上が遺伝的影響におびえている現状は悲劇以外の何ものでもない。親のおびえは子どもに伝染する。人々のそうした意識環境で成長する子どもの将来が明るいはずはない。根深い社会的差別が長期にわたって子どもたちを苦しめることになるかもしれない。

清水さんからは、「福島県民は、『放射線の健康被害はゼロであってほしい』という思いとともに、『もろ原発はごめんだ』と強く思っている。放射線の健

康被害の有無と原発の是非は別問題だ。善意の発言が人を苦しめることもある」ともうかがいました。

私は「三・一一」後、原発問題に関する百数十冊の本を読み、私自身もいくつもの本や論文を世に出してきました。その中で痛感するようになったのは、原発事故と放射線障害の問題に向き合う姿勢の問題、そして、福島の人々の話を繰り返し聞き、福島の現実を見ずして軽々しくものを言うべきではないということです。

私は、「ご自身も福島事故の被災者である清水修二さんの次の言葉を、私自身の戒めにしていきます。

—ある情報が真実であるかどうかは、それ自体として科学的あるいは論理的に検証されなければならぬ事柄です。それを「政府の言うことだから」信用できるとかできないとか、「推進側（批判側）にいた学者の言うことだから」信用できるとかできないとか、「放射能に甘い（辛い）主張だから」嘘だとか本当だとか、その手の決めつけがどれほど広く行われたことでしょうか。いまでもそうした情報環境は基本的に改まっていないと思います。私自身は原子力発電にはずっと批判的で、とくに福島事故を経験したからは原発の廃絶を強く望む立場にあります。しかしこの間、いわゆる「反原発」陣営の思想の底の浅さというか思慮のなさというか、差別的体質というか、そういうものに失望したり怒りを覚えたりしたことが何度あったかしりません。今度の事故・災害をめぐる「反原発運動の思想性が問われている」と私は思っています。

（本稿は講師本人による寄稿）

助昭三業績集を出版

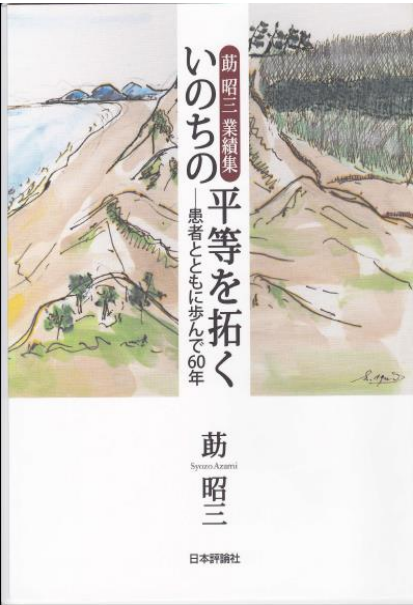
「いのちの平等を拓く」

―患者とともに歩んで六〇年―

「業績集」編集委員会

助（あざみ）昭三先生を知らない方はいないと思います。改めて概説すると、山東出兵の年、一九二七（昭和二）年に旧松任市で出生。海軍江田島で終戦を迎え、戦後は四高から旧制金澤医大に入學。一九五三年に卒業して公衆衛生学の研究者を志しますが、同年に「内灘闘争」が勃発します。これは日本で最初の基地闘争ですが、医療支援で現地に入り、終結後も住民に請われて、内灘診療所の所長になります。その後、城北診療所に転じて病院化し、そこで患者会を組織して成人病管理の典型を模索し、公害・薬害の取り組みに患者・住民の立場から参加します。

一九八三年から一〇年間は、全日本民医連の会長を歴任されました。退任後、特別養護老人ホーム建

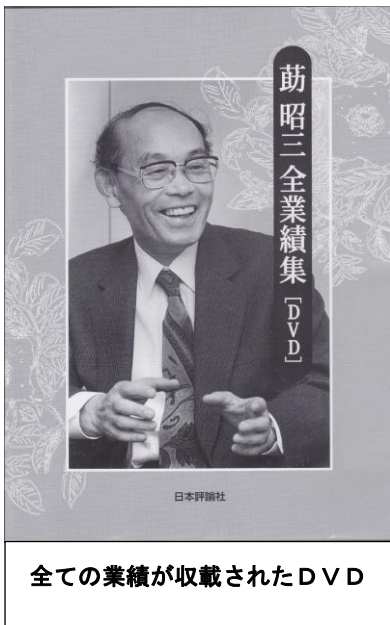


設運動の先頭に立って、住民立の「やすらぎホーム」を実現しました。今でも週四単位の外来診療を担当

しながら全国各地を講演で飛び回り、年一回は中国で「七三一部隊」問題の調査にと活躍されています。

この助昭三先生の六〇年間の全業績（著書、学術論文、一般文など約一千件）、雑誌に投稿した記事や未発表の随想、各地での講演記録など、『いのちの平等を拓く―患者とともに歩んで六〇年』という本に編集しました。この本は大変読みやすく助先生の六〇年間の足跡がエピソードを通じて辿れます。例えば、医学部一年生の時に福井地震が発生し、仲間と医療支援に駆けつけます。丸岡近くで伝染病予防のチラシをまいていて占領軍に拘束され、その時の官憲の不当な扱いに憤慨して「共青」に加盟したというエピソードがありますが、胸騒ぐ青春のひとつこまです。中野重治との出会い、住民との信頼関係を育くんだ内灘のこと、寄付金募集運動での長生会役員との心温まるやりとり、自身が加害者となってしまった医師としての薬害スモンの反省などが、綴られています。

助先生は日常診療を通じて「医療は患者との共



全ての業績が収録されたDVD

同の営み」であると提唱しますが、これは医師会などの伝統的な医療観とは一線を画し、患者とともに歩んできた医師の生きざまを反映しています。近年は「七三一部隊問題」を通じて、日本の医療界の戦争責任を追究し続けていますが、特殊部隊の犯罪というだけでなく、大戦中は大陸各地で軍医教育に捕虜を使った生体解剖が行われていた事実も明らかにされています。

これらの戦争責任があいまいなままになっていくことと、戦後繰り返された薬害問題との深い関係も事実をもって告発し続けています。

先生の業績から読み取れるものは、単に過去の出来事としてではなく、現在進行中、そして未来の医療を考える上で大切な示唆をしているのではないのでしょうか。ぜひ、医療関係者だけでなく、広く多くの方に読んでいただきたい一冊です。（池田治夫記）

『いのちの平等を拓く―患者とともに歩んで六〇年 付録・助昭三全業績集DVD』

日本評論社、定価三二五〇円

（申込先）石川県民主医療機関連合会

電話 〇七六―二五三一―四五八

FAX 〇七六―二五三一―四五九

（編集部より）助先生には、非核石川の会の創立時には常任世話人、現在は世話人としてご尽力いただいています。

非核石川の会 リレーエッセイ

核兵器を廃棄した国―南アフリカ共和国

河野 晃

核兵器を保有すると、なかなか手放さないので核兵器保有国の常であるが、一旦保有したものの、自ら廃棄した国がある。それが南アフリカ共和国である。南アフリカは、石油以外の鉱物資源に恵まれて、金、ダイヤモンド、プラチナ、ウラン等を輸出している。またイセエビ、マグロなどの漁業も盛んで、日本が大量にそれらを輸入している。

南アフリカの原爆製造が明らかになったのは一九九三年のことである。当時のデクラーク大統領が同国で製造した六個の原爆すべてを廃棄したと公表したのである。第二次世界大戦後、冷戦体制を背景に、アメリカとイギリスが核兵器製造に必要なウランの供給源を国際的に求めた結果、南アフリカでは一九五二年に大規模なウラン採掘が開始され、一九八〇年代には年間六〇〇〇トンに達していた。その結果、ウラン濃縮技術を獲得し、高濃縮ウラン製造が可能となり原爆を保有するに至ったのである。核不拡散条約に加盟せず国際的な査察も受けなかった。東西冷戦の情勢のもとで、極端な白人優位主義の体制を維持するのに必要な軍備と考えられていた。

金沢大学医学部の同窓会報（一九八五年）に当時金沢大学第一内科の教授であった小林健一先生が「アフリカ紀行」と題して寄稿されている。アパルトヘイト（人種隔離政策）の惨状を見て「黒人の低

賃金（白人の一七分の一）が、世界の金産出額の七〇％を支えている。白人居住区の家々はすべてテニスコートとプール付きである。一七％の白人が八三％の黒人をいつまで抑えきれるか。ベンツと裸足の差をいつまで維持しうるであろうか。アフリカに残された白人要塞の運命やいかに」と述べられている。

こうした露骨な白人優位主義、人種隔離政策は国際的な非難を浴び、経済制裁を受け、オリンピックから追放されるなど孤立を深める結果となった。東西冷戦体制の終焉という時代背景の中で、使用する可能性がほぼ皆無である核兵器を保有し続ける経済的コストの問題や、黒人政権が誕生する前に核兵器を処分したいという思惑も核兵器廃棄の決断の理由として指摘されている。

一九九三年、マンデラ氏はデクラーク氏とともにノーベル平和賞を受賞した。その翌年マンデラ氏は南アフリカ共和国の第八代大統領に就任した。核兵器廃棄以後の南アフリカ共和国は、核不拡散を推進する積極的な外交に取り組んでいる。

私は二〇一二年南アフリカ共和国を訪れた。アパルトヘイトの後遺症は今日なお続き治安が悪い。現地旅行社の職員は、日本人観光客は指定されたところ以外は立ち寄らないようにと注意する状態である。しかし、ケープタウンの大型店では、白人と黒人が肩を並べて人種を問わず働いている光景も見られた。核兵器を廃棄し、人種間の融和を目指して発展する様子が垣間見られた。

非核平和の海外情勢

八月三〇日全国の会常任世話人会で海外情勢報告が藤田俊彦常任世話人からありました。

① 「米露核軍縮の停滞状況を探る」

ワシントンポスト紙の記事で、これはオバマ大統領がプーチン大統領との会談をキャンセルした直後の八月八日に民間平和団体プラウシェアズ基金のジョセフ・シリニンシオーニ代表に、記者がインタビュールしたものである。

代表は、「オバマ大統領がプーチン大統領との会談で合意したがっているのは、核兵器の削減についてである。しかし、プーチンはNATOの通常兵器の削減、ロシアを攻撃できるアメリカの精密攻撃兵器、ミサイル防衛での護歩を絡めていて難しい状況になっている。でもプーチンはオバマが求めるものを全て受け入れたとしても核兵器の大幅な削減の合意にはならないだろう。せいぜい三分一程度の削減である。START（戦略兵器削減）条約では、二〇一八年までに戦略核弾頭を一五五〇基にすることが合意されている。アメリカは現在一六六四基まで削減した。ロシアは核兵器の老朽化のためにこの一〇年間に一〇〇〇基ぐらいまで削減となるだろう。しかし、現実的には、核兵器が一〇〇〇基も必要がないし、シリアや北朝鮮を攻撃するためにはそれらの兵器は必要ない。オバマはプーチンに対して、冷戦論理にはまっていると批判しているが、オバマ自身も冷戦論理にはまっているようにおもえる。ロシア

との地球規模の核戦争に備えているから、そのような大量の核兵器が必要であるという論理になるのである」

② 「イランのロウハニ新大統領は中道派」

英国ガーディアン紙の八月四日の社説が紹介された。ロウハニ大統領は、就任式の時に様々なメッセージを発する機会を無にしなかった。

彼はアメリカに対して敵という言葉を使わなかったし、アメリカに対してもイランから適正な反応を求めるのであれば、制裁の言葉を用いるべきではないと述べた。ロウハニ氏は改良派ではなく、中道派だ。彼は、モハマド・ザリフ氏を外務大臣に指名した。ザリフ氏は、元国連大使で、対米二国間秘密交渉に関わったことがある。もし、アメリカやEU諸国が制裁を一段と強めれば、イラクはさらにもう少し膝を屈するだろうとする考え方が、これ以上のまちがいはない、としてイランからのメッセージを読むべきである」と注意を促している。

(原和人全国の会常任世話人の報告から。文責・編集部)

会費納入のお願い

会費未納の方へお願いを同封しております。ものいりの多い折から誠に恐縮ですが、何卒よろしくお願い申し上げます

詩人会議かなざわ「独標」より

時間薬

市谷 のぶ

躓いたわけではなく
滑ったわけでもないのに
とつぜん片足が宙に浮いて
雑巾絞るように足首が振じれたままに
転んでしまったことが始まりだった
腰椎狭窄症の身も忘れる程だった
手術前のリハビリ手術後のリハビリで
退院後の暮しは一変した
ひとりでは何も出来ない
一人では生きられない毎日の
焦りと激痛で夜も眠れない辛さを味わったが
それでも時間薬の有難さ
朝のゴミ出しは自分で出来るようになった今
施設へ入ったまま
出会うこともない友人を思い出すそして
どんな花よりも美しい人々や
美しい明日を信じる力があることの不思議さに
満たされて生きたいと願った人よりも
欲張りな自分がいる
今日も朝から時間薬を飲みながら
明日こそは外出できますように……と
アネモネの赤い花を眺めている

和定例句会報より

和川柳社の九月句会が開かれなかったため、本号では「和定例句会報より」の転載は中止します。

「会員投稿」

会員の岩原茂明さんがインターネット上の「平和川柳研究会」に発表した句を紹介します。
海の幸山の幸まで汚染され
アスファルト寝そべる人のない公園
芝生こそ日向ぼっこにちようどいい
維新の会カネつぎ込んで負けに負け
無党派はやっぱり野に置けレンジソウ

志賀原発の再稼働反対・廃炉
即時原発ゼロ・福島原発被災者支援

11・9県民集会を成功させよう

日時 11月9日(土)
13:30 福島からの訴え・リレートーク
国会からの報告など
15:00 パレード
会場 志賀町文化ホール
主催 11・9県民集会実行委員会
事務局 石川県労働組合総連合
電話 076-231-3199

故・清水正明医師の広島被爆絵画シリーズ②

原爆の図

— 母と子 —

何を思い 何を泣く
恨みか 怒りか 悲しみか



(輪島市教育委員会所有)

《非核平和・行事予定》

- ・一〇月三日(水)一八時半…二〇一五年国連に要請団を送る石川県実行委員会・石川民医連会館・主催実行委員会
- ・一〇月二六日(土)一五時…昉昭三業績集出版記念講演会・祝賀会・金沢スカイホテル
- ・十一月二日(土)一四時…輝け九条石川県民集会・記念講演「憲法九条と集団的自衛権」講師五十嵐正博金沢大学・神戸大学名誉教授・「憲法九条と二五条」核廃絶・脱原発を考えて」講師白崎良明反核石川医師の会代表世話人・県教育会館三階ホール・主催九条の会石川ネット
- ・十一月二日(土)一六時四五分…非核石川の会第二回常任世話人会・県教育会館四階会議室
- ・十一月九日(土)一三時半…「原発再稼働反対・志賀原発廃炉・福島被災者支援県民大集会」・志賀町文化ホール・主催実行委員会
- ・十一月一〇日(日)一〇時…第八回石川県社会保障学校・記念講演二宮厚美神戸大学名誉教授・県社会福祉会館・主催実行委員会
- ・十一月六日(水)一二時半…署名69行動・Mザ前
- ・十一月五日(金)一七時(日)…二〇一三年日本平和大会G岩国
- ・十一月六日(土)一三時半…国民救援会石川県本部大会・県平和と労働会館
- ・十一月二四日(日)一三時…石川県労働者学習協議会創立五〇周年記念集会・KKRホテル金沢
- ・十一月二四日(日)一四時…石川県保険医協会原発・い

のち・みらいシリーズ講演会「こどもと低線量被ばく」谷内江昭宏金沢大学医薬保健研究学域系小児科
学教授・金沢市打木町金沢市異業種研修会館

絵手紙コーナー

「集団的自衛権を手にして」

金沢医療生協 絵手紙班 竹味恭子



《編集室より》

◎九月号から本紙で連載が始まった『広島被爆絵画シリーズ』への梶文秋輪島市長メッセージに接した
会員から『非核・いしかわ』の取り組みに賛意が寄せられているとの報告がありました。

編集委員会ではこれからも地域に生きる人々と共にすすむ「非核・平和運動のひろば」を目指し、
年報の出版など創意ある企画をと語り合っています。(一)